

第5回奈良市子ども・子育て会議の概要

開催日時	平成26年5月28日(木) 午前10時～正午
開催場所	奈良市役所 北棟2階 第16会議室
議 題	1. 平成26年度の主な検討事項及びスケジュールについて 2. 各部会の審議報告について 3. その他
出席者	出席委員11人(欠席委員3人)・事務局10人
開催形態	公開(傍聴者:なし)
担当課	子ども未来部子ども政策課
議事の内容	
1. 平成26年度の主な検討事項及びスケジュールについて 事務局より、平成26年の子ども・子育て会議における検討事項と開催スケジュールについて、資料3に基づいて説明を行った。	
2. 各部会の審議報告について① 事務局より、4月24日に開催した「第4回事業計画策定部会」の審議内容について、資料4に基づいて報告を行った。	
〔質疑・意見の要旨〕	
副会長	部会で議論になったのが、この数値に合わせれば平成27年度に一気に施設を増やすこととなりますが、市としては、実態としてこのような計画はできないので、数値を少しずつ上げるようにしたいということでした。その提案には納得しましたが、小規模な保育や民間の多様な参入ができるような工夫も検討して欲しいという意見が出たことを補足しておきます。
亀本委員	教育・保育施設の提供区域についてですが、奈良市は一つの小学校区に一つの幼稚園という考え方で始まっており、歩いて帰れる範囲内に幼稚園施設があることはとても望ましい状況だと思います。特に教育・保育施設については中学校区を一つの区域として、その中に最低一か所は中核施設として公立園を組み込むべきではないかと思います。幼保連携施設の部分で再編の実施計画では、中学校区を一つのゾーンとして、そこに公立園を一つは残すという話だったと思いますが、その辺りとの整合はいかがでしょうか。また、病児・病後児保育についてですが、教育・保育と密接な関連性があり、基本的には中学校区の組み合わせによる方に入れるべきかと思いません。 次に事業計画策定についての考え方について、少子化になっていくとは思いますが、それを阻止して推計値を上回るために、我々がここで議論し、それを少しでも反映をして市民の方々が安心して子育てができるまちにすることが大切だと思います。国の基準に合わせるだけでなく、奈良市としてこだわって

いく部分や、夢を実現するための計画である必要があります。条例等ができ、パブリックコメントを行うということだけでは夢がないように思います。事業計画の理念や基本目標として、子どもを安心して産み育てるまちを作っていくということで、その項目の中にも地域における子育て支援の充実ということがあったと思います。それを具体化していくことが事業計画であるということに立脚して、条例や細部を考え、何か問題や提案があった場合にはそこに立ち返って、我々は考えて行く必要があると思います。

2. 各部会の審議報告について②

事務局より、4月17日（第1回）及び5月9日（第2回）に開催した「認可・運営基準検討部会」の審議内容について、資料5～8に基づいて報告を行った。

〔質疑・意見の要旨〕

副会長 小規模保育に看護師を置いて保育することを検討されたのかということ、既存の保育所で実施されている公的な保険が小規模保育でも可能かどうかの2点について部会で議論をされたのか教えてください。

事務局 資料6の職員（A型）に「当該事業所に勤務する保健師または看護師を一人に限り保育士とみなすことができる」と記載しています。この基準は小規模保育事業においては、A型、B型、C型全てにおいてみなす規定があります。保険に関しては、日本スポーツ振興センターとの関係について質問がありました。全国的に自治体では保険の適用を求めている状況の中で、現在はまだ認められていないという報告をさせていただきました。

横尾委員 バンビーホームの状況についてです。通常保育や春夏秋冬休み期間中の土曜日は午前8時から午後5時までですが、通常の土曜日は午前9時から午後3時と短縮されています。仕事が忙しいため土曜日に出勤をする方もおられますし、バンビーホームに子どもを預けている家庭には共働き家庭も多く、弊社でも通常の土曜日の預かり時間が平日より短いため、出勤時間を遅らせたり、退社時間も時間有休を取得し早退したという方がおられました。通常の土曜日の保育時間を平日の保育時間と同じにすることを検討していただけるとよいと思います。

事務局 保育時間について、小学校の授業休業日に行う放課後児童健全育成事業は条例策定後は、1日8時間が基本となってきます。土曜日についても何らかの改善が必要になってくると思っております。

岡本委員 全体的な奈良市の予算を配分していくとなった時に、現状では学童に力を入れていく必要がある中で、保育所要件を下げたり保育所を整備していこうとし

ていることに対して矛盾を感じました。もう1点、土曜日のこともそうですが、フルタイムで働いている人に学童を整備する必要があると思う一方で、フルタイムとパートタイムという働き方をしている家庭は、学童に入れることができないと、2時間ぐらい留守番をさせながら働くことになってしまいます。1番困るのが夏休みなどの長期休暇の時です。今後C´のグループが増えていくことを考えると、フルタイムの方ばかりを想定するのではなく、パートタイムの方でも働き続けられるような整備も必要だと思います。土曜日についても整備をしていただいて、パートタイムでも長期休暇だけ預けることができるなど、柔軟な対応が可能になればよいと思いました。

会長 予算をどのようにバランスを取るかということでは今後、保育所型の子どもだけでなく、専業主婦で幼稚園型を今まで選んでいた家庭養育に対しても支援が必要な時代ではないかと思います。その2つのバランスを考える必要もあると思いますし、長時間保育を受けた子どもが小学校に入学をしていくので、長時間の学童保育のニーズも増えてくると思います。

杉山委員 専業主婦の立場からの意見になりますが、子どもを1番に考えてあげられるとよいと思います。子どもが望むように親がしてあげられる世の中になって、育児を楽しめる親になればいいと思います。会議に参加をさせていただきましたが、私が思っている事とは反対のことになるのかなと思います。話を聞かせていただいていたいました。

会長 とても貴重なご意見だと思います。この子ども・子育て会議は制度の議論をしている部分もありますが、本質的には、子どもが中心である必要があるということ、みなさん共通理解をされていると思います。

亀本委員 幼保連携型認定こども園の設備及び運営に関する基準について、4階建以上を認めることで参入障壁をできるだけ低くして、多くの事業者に参加してもらいたいとなっていますが、今の表現のままでは、子どもの安全よりも民間参入が大事と捉えられてしまう可能性があります。私たちは部会で議論をしているので奈良市の考え方を理解していますし、実際の園では3階建以下の建物しかないと聞いていますが、私たちが1番大切にしなければいけないのは、子どもの命であり安全だと思います。地震など天災はもちろん怖いですが、身近な問題としては火災があります。人員基準も国基準でいくとのことですが、0歳児3人に対して職員が1人という状況の中、火災が発生して逃げられるかどうか疑問です。これを新たにやっていく施設ということを考えて時に、あえて国の基準に合わせて自分たちが作った基準で4階建以上の建物ができ、もしそこで人が亡くなる事があつたらこんなにつらいことはないと思います。奈良市の

場合に参入障壁になるとは思えません。是非もう一度考えていただきたいと思います。

会長

これからパブリックコメントを実施していく中で、同じような意見が返ってくる可能性があるかと思います。事務局としては、最終的にパブリックコメント後に決定するまでに、意見を真摯に受け止めてご検討いただきたいと思います。特に資料5の3ページにある本市の考え方にある安全基準の部分は、3階までとするなら、そのように文章を書き換えてパブリックコメントを実施するようにするのかなど、部会でもかなり議論をした部分にもなります。新たな制度を進めるという意見も出ていますが、奈良市においては3階でよいのではないかという意見も確かにあったと思います。パブリックコメントで、なぜ4階以上は無いのかという意見が出れば、それも反映する必要があると思いますが、現状は安全優位ということで部会としては意見を述べたとご理解いただいた方がよいと思います。もう一度、事務局でご検討いただきたいと思います。

2. 各部会の審議報告について③

事務局より、5月2日(第1回)及び5月23日(第2回)に開催した「支給認定・利用者負担検討部会」の審議内容について、資料9に基づいて報告を行った。

3. その他

事務局より次回会議の日程について説明を行った。

資料

- 【資料1】奈良市子ども・子育て会議委員名簿
- 【資料2】諮問書
- 【資料3】平成26年度の主な検討事項及びスケジュールについて
- 【資料4】事業計画策定部会の審議報告について
- 【資料5】奈良市幼保連携型認定こども園の設備及び運営に関する基準を定める条例骨子(案)
- 【資料6】奈良市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例骨子(案)
- 【資料7】奈良市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例骨子(案)
- 【資料8】放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準について
- 【資料9】奈良市支給認定(保育の必要性の認定)に関する基準骨子(案)
- (参考1)子育てに関するニーズ調査結果報告書
- (参考2)子育てに関するニーズ調査結果報告書(概要版)